

凡例

○原著のイタリック体の部分やギョメで挟まれた部分は、傍点を付したり、『』や「」で括るようにしたが、厳密に対応させることはしていない。

○原著に頻出するイタリア語の引用文や作品名等個有名詞は、フランス語原文と区別することなく日本語に訳し、特に断わることもしていない。

○原注は和数字によって日付ごとにまとめ、当該日記のあとに付した。

○訳注は算用数字によって脚注としたほか、「」で割注にした。人名については訳注を付さず、人名索引で簡単に説明を加えた。